

152 文徳マサー（ハ）（藁^{わら}縄^ない）

年いつてからさ、藁縄^{わらな}つておかれるさ。漁業さ、近くから、何百メートルといつて。だから縄う時よ、柔らかくしてくれといつて頼むと。そうせんとあんまり堅くて使えない。六十もあん時は過ぎておつた。だから何と上の方は、一メートル五十まっすぐ立ちよつたいうか、あるところにいったら。だから今ものこつてると。

石よ石、あの人が、藁は先が堅いらしい。だから叩くわけよ。叩いてから縄うからや、その石を。だから若い青年がよ、

「このお爺は武士ではないから、これ捨てよう」と言つたけど、夜よ、これと寝とる時に担いで行つたけど、この人の家がある、前は畑だった。遠いところに捨てよつたですよ。明くる日青年たちが、翌日行つたらもう元のままにあるつて。だからどんなに持つて来るかなと。担いで来たかなと。それ、今度強いからといつ

て、みんな試して。自分の時代になつてから。だから今もこれはある。

字糸満 大城英次